

第 3 3 回市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成 2 9 年 1 1 月 1 3 日（月）午後 2 時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（加藤円山動物園長） 本日は、お忙しい中を市民動物園会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

改めまして、園長の加藤でございます。

市民動物園会議は、円山動物園の運営に幅広い市民の意見と各分野の専門的な見識を反映させ、市民の方々が動物園の運営に直接参加していただくことを目的としまして、平成19年に設置されたものでございます。

なお、この会議は、札幌市の附属機関として位置づけられております。

委員の任期は2年であります。

このたびは、任期満了に伴いまして、新たに5名の委員の皆様にお越しいただけることになりました。どうかよろしく願いいたします。

それでは、早速、議事に入らせていただきたいと思います。

進行は、金子議長にお渡しいたします。よろしく申し上げます。

2. 議 事

○金子議長 ただいまご紹介いただきました議長を仰せつかっております金子と申します。

ただいまから第33回市民動物園会議を開催したいと思います。

まず初めに、冒頭の加藤園長のご説明にありまして、任期満了に伴いまして、本会議に初めてお越しいただいた方もおりますので、まずは自己紹介から始めさせていただきますと思います。

まず、私からです。

私は、現在、酪農学園大学の環境共生学類で、環境保全のため、主にコンピューターを使ってビジュアル化するとか、地図化することを専門にしております。

市民動物園会議は、かれこれ6年ぐらいと、長いことやっておりまして、もうそろそろ卒業させていただきたいところですが、単位が不足しており、留年ということなのか、もう少しの間だけやらせていただくことになっております。

議題であります基本構想をリニューアルさせるというかなり重たいテーマがございますので、皆様方にはいろいろとご面倒をかけるかと思っておりますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、時計回りで、森田委員からよろしいでしょうか。

○森田委員 このたび、新しく委員になりました森田と申します。私も円山動物園と同じ中央区の在住であります。よろしく願いいたします。

私の長男が金子議長の教え子であり、また、中本委員は私の息子の後輩であります。

私がなぜこの会議の委員に応募したのかというと、動物園が大好きだからです。30代までは仕事の都合で東京に暮らしておりましたが、そのとき、毎週のように上野動物園にパンダを見にいたり、井の頭公園にゾウのはな子を見にいたり、動物園が大好き一家

だったのですね。このたび、家内から、お父さん、ぜひ動物園会議の委員になってくれと後押しをいただき、このたび委員に応募し、選んでいただきました。

素人ではありますがけれども、いろいろと勉強させていただきたいと思っておりますので、委員の皆様、議長、よろしくお願いいたします。

○八木委員 八木と申します。

前回から引き続きですが、よろしくお願いいたします。

私は、「北海道生活」という全国誌の編集長をしております、この会議には平成25年からかわらせていただいておりますが、この間に円山動物園が一番大変な時期となり、どうしたらよりよい動物園になるだろうかという会議を何度も重ねてきました。その中で、一緒に考え、一緒に苦しみ、一緒に進めてきましたので、これからの円山動物園が「北海道生活」で魅力を発信していけますように、微力ながら応援していきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

○矢野委員 矢野と申します。

地域の代表ということで、円山西町町内会という動物園をぐるり囲んでいる町内会から参加しております。

私は、今日で10回目になりました。一番つらいときも乗り切ってきました。

一番つらい時期にはプレスの方がずらっといたのです。傍聴の方も興奮して発言していたこともありました。

また、動物園の宣伝をしようということで、皆さんの手元に連町ニュースを配付しています。中央区には16の連合町内会がありまして、その中の一つに宮の森大倉山連合町内会がございます。加藤園長は前にまちセンの所長をされておりました。神課長も円山のまちセンの所長をされていて、よくわかっているかと思っております。カラーではないのが残念ですが、1ページと4ページに宣伝を載せております。動物園としてもどんどん発信、宣伝していったほうが良いと思っております。

来年は12回目のスノーフェスティバルになるのですけれども、さっぽろ雪まつりのときに、毎年、氷の滑り台をつくっています。町内会も高齢化してしまっていて、来年は病院の若い男性10人ぐらいとベテランの高齢者で滑り台をつくろうかと思っています。動物園に協力できることは協力し、バックアップしていきたいと考えております。

○吉中委員 こんにちは。吉中と申します。

酪農学園大学の環境共生学類国際理解学研究室に勤めております。このたび新しく委員を務めさせていただくことになりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

多分、10年ぶりぐらいに北海道に戻ってきたのではないかと思います。この4月から酪農学園大学で研究室を主宰しております。その直前は、生物多様性条約という国連の条約の事務局に勤務しております、7年ほどカナダのモントリオールにいました。久しぶりに北海道に戻ってきてまして、今、拝見しましたら、わくわくするような動物園のこれから携わることができるということで、とてもうれしく思っております。

大学では、生物多様性のほか、持続可能性、異文化理解、コミュニケーションということ 키워ドにいろいろなことに手がけているところがございます。

新しく議論に参加させていただきますので、わからないことだらけですが、どうぞよろしくお願いいたします。

議長からご紹介がありましたけれども、基本構想の検討にも関与させていただくことになりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（小菅参与） 私は、おととしからこちらでお世話になっている小菅と申します。

僕は動物園の世界でずっとやってきましたが、円山動物園が堂々した動物園であり続けるにはどういう考えが必要なのかについて横から話させていただいています。

実際には、動物園というものは、日本国では規定されているものがなく、そのときそのときで揺れ動いている根っこがないような状態が現実です。だから、その根っこをしっかりとしたものにして、そこから育っていく道をつくり上げる必要があるのかなと常々考えております。

よろしくお願ひします。

○事務局（加藤円山動物園長） 改めまして、園長の加藤でございます。

昨年春から園長をやっています。

皆さんは、これから先の10年、15年の円山動物園をどういうふうにしていきたいかという基本構想のリニューアルをしていただきたいと思います。この先、いつか、この円山動物園がこのまちにあることが札幌市民の誇りになれるような動物園にしていきたいと思ひますので、それに向けてご協力をよろしくお願ひいたします。

○事務局（神経営管理課長） 経営管理課長の神でございます。

今年4月に着任しまして、7カ月ぐらいたちました。

円山動物園は22ヘクタールありまして、最近、やっと迷わなくなり、どこにでもスムーズに行けるようになってきました。

市民に愛され続けられる、そして、円山動物園が札幌にあってよかったなと思ってもらえるよう、動物園運営にしっかりと取り組んでいきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（山本飼育展示課長） 飼育展示課長の山本と言ひます。

抜けている時代もあったのですが、トータルで12年ほど動物園で仕事をさせていただいておひます。とはいえ、まだまだわからないことがいっぱいありますので、皆様のお知恵をおかりしながら、いろいろと考えていければなと思ひておひます。

よろしくお願ひいたします。

○中本委員 酪農学園大学獣医学類2年生の中本と申します。

今期から就任させていただきました。よろしくお願ひします。

高校がすぐその旭丘高校で、円山自体に愛着もあり、円山動物園も小さいころから何度も足を運んですごく好きな場所ですので、少しでも力になればと思ひておひます。

こういう場所で緊張しているのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

○土田委員 札幌観光協会の土田と申します。

今回初めて委員になり、何分わからないことだらけで、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、しっかり勉強していきたいと思います。

ふだんは、これから行われますホワイトイルミネーションや雪まつりなどのイベントを行いつつ、JR札幌駅の観光案内所を運営しています。それから、札幌市経済観光局と一緒にさまざまな観光誘客受け入れ施策等を実施しております。

先ほど駅から歩いてきて、円山公園も久しぶりに歩いてみたのですけれども、外国人観光客がこの寒い中で散策されているのを見かけました。北海道神宮も近くにありますが、この辺は外国人観光客の方も訪れる場所ではないかと思いました。

私としては、観光の観点から、よりよい動物園に向けて何かご意見できればと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

○武田委員 初めまして、武田美保と言います。

私は動物園に関しては素人で、今、5歳の男の子を育てている母親です。

動物園が本当に大好きで、多分、毎月、子どもと来ています。今はいないですが、冬でも雪が降っている中のキリンを見るのが大好きで、いつも走り回っています。

独身時代は児童会館で働いていまして、子どもの気持ちは割とわかるほうかなと思っていますので、そうした観点から意見できたらと思っています。

週末といえば、いつも動物に関わる場所に行っていて、おたる水族館を初め、先月は旭山動物園にも行きましたし、夏には沖縄の美ら海水族館にも行きました。

このように本当に大好きなので、私が感じたことや施設の方を見て強く印象を受けたことを素材として意見させてもらえたらいいなと思います。

頑張りますので、よろしくお願いいたします。

○後山委員 後山です。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

私も、森田委員、武田委員に負けないくらい動物園を愛しています。こんなところで張り合ってもしょうがないのですけれども、よろしくお願いいたします。

私は、テレビ北海道で事業部長をしております。例えば、美術展やマラソン大会、ゴールデンマーケットをやったり、どちらかというと、主にイベントをやっています。

今、これを見ますと、円山動物園にゾウがやってくるということで、一大イベントではないかと私は思っております。うちの娘が中学生ですけれども、札幌で本物のゾウを見たことがないので、家族で非常に楽しみしております。

私も、このゾウたちを温かいムードで迎えてあげられればいいのではないかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○金子議長 ありがとうございます。

何名かの委員の方が新しくなりました。また、先ほどもお話がありましたけれども、基本構想の策定という新しく大きなテーマがございますので、皆様の活発なご議論を願

いしたいと思います。

それから、普段はこちらにいらっしゃる高井副議長は今日はお休みですが、高井副議長は北大の経済の先生で、社会科学的な方面から、あるいは、行政的な見地からご意見をいただくことを期待しております。次回からは高井副議長にも入っていただいでご議論ができることになろうかと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、今回新しく来られた委員の方がいらっしゃいますので、おさらいも含めまして、円山動物園の現状について、事務局からご説明をいただきたいと思ひます。

○事務局（神経営管理課長） それでは、資料2をごらんください。

各委員には、平成29年度版の事業概要を配付させていただいておりますが、その中から円山動物園の現況を簡単に説明させていただきます。

まず、1の現在の施設概要及び人員体制です。

こちらの会場であります動物園センター、それから、倉庫などが管理施設としてありまして、これらを含めまして67棟の施設がございます。そのうち、動物施設は32棟となっております。

飼育動物数は、167種、918点です。

次に、人員体制です。

職員が49人です。内訳は、獣医療担当が5人、動物専門員が10人、飼育員が13人となっております。今年春から新たな職として技術職であります動物専門員を設置し、新規採用職員として3人を採用し、また、飼育員から転任試験に7人が合格しております。

次に、2の今年度実施したイベント等です。

5月のゴールデンウィークイベントには、キャラクターショーのイベントも実施し、5月4日には1万8,000人を超える来園者がありました。7月29日のハーティナイトは、障がいのある方を無料で招待し、夜の動物園を楽しんでいただくもので、今年で12年目となっております。8月の夜の動物園は、昨年8日間から、今年は3日短縮し、8月11日から5日間実施いたしました。最終日の19日には、夜間だけで1万人を超える来園者がありました。今年度の新たな取り組みとして、9月に1日90名を定員として飼育担当がガイドツアーをする夜の動物園プレミアムツアーを実施しております。

このほか、円山動物園では、企業や大学などと連携しながら1年間を通じてさまざまなイベントを実施しております。

次に、3の過去3年間の来園者数の推移です。

年間の中で5月から10月の気温が高い時期に来園者が多くなっており、特に5月、8月、9月に集中する傾向にあります。また、平成27年度ですが、ホッキョクグマの赤ちゃんのリラが誕生したこともあり、年間98万人の来園者がありました。平成28年度は、ゴールデンウィークから6月にかけての悪天候、11月以降に大雪などの影響もありまして、年間79万人、29年度については、5月後半から7月の悪天候の影響もありまして、現在までほぼ28年度と同水準で来園者数が推移しております。

最後に、4の近年オープンした施設及び今後オープンを予定している施設です。

アジアゾーンが平成24年12月にオープンし、アフリカゾーンは平成28年8月にオープンしております。それから、本日、内覧を予定しておりますホッキョクグマ館ですが、来年春のオープンに向けて準備を進めております。また、ゾウ舎につきましては、来年秋にミャンマーからゾウ4頭を導入しまして、準備期間を設けた後、平成31年春のオープンを予定しております。

○金子議長 ありがとうございます。

円山動物園の現況について、何かご質問等がありましたらお願いいたします。

○森田委員 飼育動物の数についてですが、今、918点とありました。この数は現状を考えたときに多いのか、それとも、適正なのでしょうか。

というのは、私が統計を調べましたら、平成十二、三年ごろはたしか908点で、今より10点ぐらい少なかったのです。確かに動物は多いほうがいいとは思いますが、いい配置になっているかです。これは基本計画の審議のときに聞きますけれども、現状の動物の数が我々市民から見ていいと思えるようなものなのか、素人的で申しわけございませんが、それが1点です。

それから、これからいよいよゾウ舎ができてまいりますけれども、入園者数に大変プラスになると期待しております。確かに入園者を上げればいいというものではなく、中身の問題もありますけれども、やはり動物園ですから、入園者数が多くなることはいいことかと思えます。

また、平成12年に入園者数が累計で4,000万人を突破し、マスコミにも大変注目されたのですね。これにはいろいろな要素があって、2年前に秋篠宮殿下に動物園に来ていただいたという大きなこともあって、それがきっかけで市民の皆さんも来たのだということが記事に載っておりました。

やはり、動物園というのは、本当に楽しく、喜ばれるものであることが第一の目的かと思うのです。後でハードの部分についてもお聞きしたいと思いますが、最初に、印象も含め、述べさせていただきましたので、お答えをお願いいたします。

○事務局（加藤円山動物園長） 動物の数だけでいきますと、大型のものは数年前よりはだんだん減ってきている傾向にあります。ただ、爬虫類が増えてきているので、現状はこういう数にあります。大型動物は、規模に見合ったものとするよう、選択と集中が図られてきていることが言えるかと思えます。

それから、来園者についてです。

後ほど基本計画のリニューアルの審議もあるのですが、前の基本計画では来園者数の増加や収支均衡が余りにも大きくクローズアップされました。そこで、そうした反省も踏まえ次の構想を立てる関係もあり、目標数値を持たないこととしています。ですから、動物園の基本的なベーシックな活動をしっかりやり、それを理解していただいた結果としてお客さんにたくさん来ていただくことを目指したいと思っています。

ただ、動物園ですから、楽しく学んでいただかなければいけないので、より多くの方に来ていただきたいというのは当然でありますけれども、数を求めることは考えていないということです。

○森田委員 なぜ聞いたかという、私事ですが、うちの家内がは虫類・両生類館が大好きで、入ると3時間ぐらい出てこないのです。それもあり、は虫類・両生類館について十何年前からのデータを調べ、そういう感想を持ったのです。

小菅参与も同じ団塊の世代ですが、我々世代としては動物園とは娯楽の対象ですけれども、これからはいろいろなことが要求される時代だと思います。

後ほど、基本計画の審議の中で、そういうことについてもご質問させていただきます。ありがとうございました。

○金子議長 ほかはいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 今、園長からもお話がありましたとおり、これまでは、年間100万人など、数を求めたり、楽しい動物園が少し強調されていたかなと思います。これから基本構想の中でそうした経緯について触れていただきますけれども、今年から180度変えて、動物優先というか、動物の福祉と生物多様性や生態系の保全が中心になっていきます。

このように変わりつつありますので、そこら辺を踏まえて基本構想についてはご説明をしていただきたいと思います。

それでは、議題3に移らせていただきます。

円山動物園ポスト基本構想策定の推進状況についてです。

前回の会議で、ポスト基本構想は、部会などで検討していくことで、スケジュール等の説明がありました。現状と今後の見通しについて、事務局から説明をお願いいたします。新しい委員の方がいらっしゃいますから、これまでの経緯も含めてご説明をいただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○事務局(神経営管理課長) それでは、円山動物園ポスト基本構想の策定に至る経緯についてです。

資料3-1をごらんください。

まず初めに、現基本構想の策定時の背景についてです。

平成15年、旭山動物園が行動展示などで全国的に躍進を始めたころになりますけれども、そのころ、円山動物園では来園者が50万人を下回るようになりまして、当時、職員や園内の売店等で関係者の意識の低下、トップマネジメントの欠如といった課題を抱えておりました。

そのような状況の中、平成17年7月、市内のスーパーから寄附された動物の飼料を職員が個人的に持ち帰るという事件が発生し、18年4月に札幌市監査委員による行政監査により、組織としての機能不全、動物園として中長期的な目標、展望を示す構想や計画が存在していない、経営的な視点が欠如しているという指摘を受けました。

また、この事件をきっかけに、札幌市役所の組織内において、円山動物園が孤立し、職員は意気消沈、自信喪失といった事態に陥りました。

こうしたことから、円山動物園の再生に向けて、市民、経済界、学識者、動物園運営、教育関係者などから成る札幌市円山動物園リスタート委員会が設置され、ここからの提言を受け、平成19年3月に円山動物園基本構想が策定されました。

なお、このリスタート委員会は、今、皆様方にお集まりいただいています市民動物園会議の前身となります。

その後、資料の中段にありますポスト基本構想策定の背景の左の囲みにある現基本構想の基本理念の「人と動物と環境の絆をつくる動物園」に基づきまして、また、収支均衡、年間100万人の入園者を目指して動物園の運営を進めてまいりましたが、新たな施設の不備等により、右の囲みにあるとおり、相次いで動物の死亡事案が起き、平成27年8月には、マレーグマの死亡事案に対しまして、動物の愛護及び管理に関する法律を遵守していなかったとして、動物管理センターから改善勧告を受ける事態になりました。

この改善勧告を受け、平成27年9月に獣医師を一つの係に一元化、10月には獣医師1名の増員、28年4月に動物診療担当課長と診療担当係長を配置したほか、施設の安全点検や職員間の情報共有の時間を確保するために開園時間を短縮いたしました。また、これに加え、これまで1年に3日間しか休園日はありませんでしたが、休園日を増やす取り組みを行いました。

また、冒頭に説明いたしましたが、新たに技術職である動物専門員を今年4月から配置するための準備をいたしました。しかし、そのさなか、今年2月、不適正な契約事務が発覚しまして、職員が懲戒処分を受ける事態となりました。

一方、動物園を取り巻く環境につきましては、現構想がつくられた10年前と比べ、動物の福祉に配慮したより質の高い施設整備と動物園運営が求められております。こうしたことを背景に、時代に沿った新たな円山動物園の運営指針などを定めるための現基本構想にかわるポスト基本構想を策定してまいりたいと考えております。

ポスト基本構想の検討に当たりましては、この市民動物園会議の下部組織として検討部会を設置し、円山動物園が検討しているポスト基本構想に対してご意見やご指摘をいただくこととしており、検討部会でご議論いただいたものにつきましては、ポスト基本構想案として、市民動物園会議の場でも皆様方のご意見等を頂戴したいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

資料3-1を用い、経緯についてご説明いただきました。

続きまして、円山動物園ポスト基本構想策定についての説明をお願いいたします。

○事務局（高橋調整担当係長） それでは、私からご説明させていただきます。

今後、どのような過程を経て円山動物園ポスト基本構想を策定していくかについてです。

まず、ポスト基本構想の策定に当たりましては、当然、円山動物園が中心となって策定しますが、民間事業者が持つ専門的なノウハウを活用することが有効であると考えており

ますことから、NPO法人EnV i s i o n環境保全事務所の業務委託により実施してまいります。

それでは、資料3-2をごらんください。

(1)の背景と(2)の目的につきましては、先ほどご説明させていただきましたので、割愛させていただきます。

(3)の全体の構成図についてです。

中心に円山動物園ポスト基本構想の策定があり、その下に園内職員プロジェクトとの記載がございます。

この職員プロジェクトは10月に立ち上げましたが、ここが中心となってポスト基本構想の内容を考えてまいります。また、このプロジェクトに加えまして、左側に記載のある検討部会などを通して専門家の意見を、そして、右側に記載のあるアンケートや市民ワークショップなどを通して、市民や来園者の意見を反映いたします。

この専門家の意見を聞く検討部会につきましては、次のページをおめくりください。

こちらに記載のありますとおり、検討部会の第1回につきましては、11月6日に行われておりまして、4回から5回の開催を見込んでおります。

このほか、(5)の実施企画にございますとおり、子どもワークショップ、市民ワークショップ、そして、次のページの来園者アンケート、シンポジウムなどの開催を予定しております。これに加えまして、12月には札幌市全体で行う市民意識調査でも、動物園に関する項目を設け、市民に広く意見を聞く予定となっております。

全体スケジュールにつきましては、(6)の実施スケジュールのとおりで、ポスト基本構想の素案につきましては今年度中に、その後、パブリックコメント等を経まして、来年秋には完成させていきたいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

続きまして、資料3-3の円山動物園のポスト基本構想策定検討部会の委員名簿を神課長からお願いいたします。

○事務局（神経営管理課長） 資料3-3をごらんください。

ただいまご説明のあった検討部会の委員名簿になります。

検討委員は6名で、ここに書かれているとおりです。委員長は、市民動物園会議の委員でもあります吉中委員に就任いただいております。副委員長は、福井准教授で、現在は岩手大学の共同獣医学科にありますが、以前は旭山動物園で獣医師として勤務された実績がございます。このメンバーに加えて、オブザーバーとして、金子議長、小菅参与、事務局として動物園職員なりEnV i s i o n環境保全事務所のメンバーが加わり、この場で基本構想のいろいろな検討をさせていただくこととなっております。

○金子議長 ありがとうございます。

今日の審議のメインとなるのが基本構想の策定に関しての検討です。資料3-1から資料3-3までありますが、まず、資料3-1と資料3-2に分けてご質問をいただき、最

後に全体に関してご質問を承りたいと思います。

それでは、資料3-1の基本構想策定検討に至る経緯について、過去の状況を簡単にご説明いただきましたが、ご質問等はございませんか。

○事務局（加藤円山動物園長） 補足説明をいたします。

先ほどからポスト基本構想なり基本構想といろいろな言葉が出てきました。前回の検討部会でもお話をさせていただいたところですが、過去の基本構想を受けて進めていった中でさまざまなことが起き、動物園にあるいろいろなひずみが見えてきました。そこで、今回つくろうとしているものは、前回の基本構想を踏まえているのですけれども、全く新しいものをつくろうという構想であります。

そういった意味から名称も別のものにしようと思っていまして、ポスト基本構想としてるところです。仮でもいいから名称を先に決めてしまいたいという気持ちもあるので、そういうことも踏まえてご意見をいただきたいと思います。

要するに、前回のものから線引きし、リセットして、全く新しいものをつくりたいということでございます。

○金子議長 それでは、森田委員からお願いします。

○森田委員 1点だけお願いします。

前の基本構想の計画期間は平成19年度から29年度の10年間で、その間に5年間ごとに見直しをされたのだらうと思います。

そこで、ここには書いていないのですけれども、24年度から28年度までのところに人と人のコミュニケーションとあるのですが、これは具体的にどういうものなのでしょう。

恐らく、パブリックコメントでもご質問があったと思いますが、そうした細かいことは申しません。ただ、「人と動物と環境の絆をつくる動物園」という全体的な基本理念のほかに、人と人のコミュニケーションとあったはず。

私の認識が間違っていたらご指摘をお願いします。

○事務局（加藤円山動物園長） 今、森田委員がおっしゃっているのは基本計画だと思います。構想を受けた計画を5年ごとにつくっていたのですが、そちらの話ではないでしょうか。

○森田委員 わかりました。

それでは、次の質問です。

市民ワークショップもそうですが、基本計画に対してのパブリックコメントでこういうことをしてほしい、これはいいなと受け取れるものはありましたか。

○事務局（加藤円山動物園長） 一つ一つのコメントについての記憶はないですが、全体として厳しい意見やいい意見をいただいた中で計画がつけられ、今まで進んできているのではないかと思います。

今回の新しい将来像につきましても、多分、来年度になると思いますけれども、ま

った後には公表し、パブリックコメントという手続をとりたいと思います。

○金子議長 ほかにかがでしょうか。

○吉中委員 基本的なところで申しわけないのですけれども、教えてください。

現在、飼育動物数が167種、918点とご説明があったのですけれども、平成22年から29年にかけて、エゾヒグマ、シンリンオオカミ等が亡くなっており、その中にマレーグマのウッチーの死亡事案も含まれるというということでした。

この167種、918点という規模の動物園でこのぐらいの死亡件数があるということはどういうふうに理解すればよろしいのでしょうか、多いのでしょうか、少ないのでしょうか、こんなものなのでしょうか。

○事務局（小菅参与） 動物は生きていますから、基本的には必ず死を迎えます。例えば、4月1日の飼育点数が翌年の3月31日のときにどれほど生き残っているかということでも、死んだら補充しますので、基本的にはプラマイゼロになるのです。

では、どれだけの数が亡くなっているか、平均すると大体1割ぐらいでして、900点飼っていけば90点ぐらいは失われます。もちろん、それを補完するように、出産があったり、どこかの動物園からもらってくることもあります。ですから、年度の最初と最後で多かった少なかったということは多少ありますけれども、どこの動物園でも1割ぐらいの数は亡くなっているというのが僕らの頭の中で押さえられている数です。

それが20%になってしまうと何かがあったのだと思うのです。そういう目で見ると、今回円山動物園で異常に多くが死んでいると指摘されているのですけれども、数的にはそれほど異常だとは思われません。

というのは、目立つ動物の死と老衰ではない死に方が続いてしまったことで、より詳しく見る、監視するという方向へ行き、その死に方にさまざまな問題があったということが指摘されたのです。もちろん、こうして問題が指摘されたことについて、やはり、一つ一つに原因はあるのです。そして、その一つには圧倒的な知識不足があったのだと思います。また、経験しているけれども、残念ながら、その経験が伝わっていないこともありました。そういう意味では、一つ一つの検証は必要ですけれども、死亡例の数が異常に多かったということではありません。

○金子議長 そのほか、経緯にかがでしょうか。

○事務局（神経営管理課長） 先ほどの森田委員の質問に関し、私からも補足説明をさせていただきます。

当時、平成19年3月に基本構想をつくりましたが、これはこういうふうになりたいという将来展望であって具体的な計画にまでは落ちていません。そこで、この構想に基づき、いろいろな事業を行うために、平成20年8月に、大体5年ぐらいをめどに基本計画をつくりました。また、5年が過ぎたので、平成25年3月に基本計画の改訂版普段をつくっています。その際、パブリックコメントをしたかどうか把握をしておりません。実際はしていなかったかもしれません。

今つくろうとしているポスト基本構想につきましては、今年度内に素案をつくり上げ、来年度にパブリックコメントをして、その意見も反映させていただくことになり、ポスト基本構想ができた後は、基本計画ということで、平成31年度から5年間の具体的な計画をつくっていくことになります。

○事務局（加藤円山動物園長） 動物の死亡数については、今、小菅参与からお話があったとおりです。ただ、我々が真摯に反省しなければいけないのは、獣舎の不備や飼育方法の誤りにより残念ながら動物を死なせてしまった事例が多々あるということです。ですから、そういうことも踏まえ、新しい将来計画を立てることにしたわけであります。

○金子議長 経緯のところでも若干触れられていましたが、いろいろな不幸な事件・事故がありました。それは、いろいろな原因が重なって発生したということですが、動物園側としては、獣医師を増員するほか、開園時間を圧縮したり、閉園日を設けたりしています。

また、大きいところでは、今まで、飼育係の方々は現業職という職種で、例えば、ごみの収集をされている方や給食の配膳をされている方、あるいは、学校の用務員に位置づけられる特に専門的な知識が必要な職種ではありませんでした。それが大きな原因なのかどうかにはいろいろと議論があるかと思いますが、動物の飼育をする人たちにはきちんとした知識を持った方になっていただくということで、動物専門員という一般職の職種をつくり、今年は10人の方が動物専門員として採用になりました。ですから、開園日、獣医師、動物専門員と、体制的にはかなり変化しています。

そして、基本構想について、紛らわしいので、私からも少し説明させていただきます。

基本構想にはビジョンが書かれているだけで、具体的なことは書かれていないほか、いつまでという年数も書かれていません。そこで、その下に基本計画という細かいものをつくり、5年ごとにローリングしていきましょうということになっています。

そして、24年から28年、次の29年から33年について、基本構想の下にある基本計画の見直しをしましょうというお話に一時なりかかっていたのですが、先ほど園長からお話がありましたとおり、それだけでは間に合わないだろう、これだけ体制が変わった中では基本計画の改定だけでは不十分だということで、基本構想を全くの白紙から作り直すのではないかということになったのです。

ですから、今までの基本構想にとらわれず、新しい形で、本当に世界の動物園の規範というか、モデルにもなるようなすばらしいものを期待しているということです。

そういうようなことで、基本構想の策定が検討事項になっていますけれども、資料3-2についてご議論をお願いしたいと思います。

今、私から背景については補足をさせていただきました。基本構想、基本計画があったのですが、これの改定をせず、大もとの基本構想、ビジョンをつくっていきましょうということです。

それから、高橋係長から、業務の全体構成、次の検討部会の日程、実施企画、来場者アンケート、シンポジウムについてご説明をいただきましたけれども、目的と業務の全体構

成のあたりが結構ポイントになるかと思えます。

基本構想という少しざっくりしたものとなりますので、夢を語るような形でも構いませんので、こういう要素を盛り込んだらどうかとか、ほかの動物園と比べてこの辺に力を入れたほうがいいのではないかなど、前向きなご意見をいただきたいと思っています。

いかがでしょうか。

中本委員いかがですか。やはり若い人に動物園に来てほしいと思うので、ご意見をお願いしたいと思います。

○中本委員 ふわっとした感じになってしまうのですけれども、動物園というのは、ただ来るだけの人から見たら、美術館みたいにふだんは見られない動物を楽しむ場所だと思われていると思うのです。しかし、動物にも人間と同じように自分たちの生活があって、子どもを産んで、きちんと背景があるということが子どもたちにも伝わるようになっていけばいいなと思っています。

○金子議長 とても重要なポイントだと思います。

実は、基本構想の策定に関し、第1回の検討部会を開催されていて、そこでもいろいろな意見が出されておりますので、吉中委員から話し合いの方向についてお話ししていただけますか。

○吉中委員 先週、第1回の検討部会が開催され、皆さんとの間でいろいろな意見を出し合いました。そのときには、具体的に、こういう構想にしよう、こういう目次にしようという話ではなく、今いただいたご意見にも近いのですけれども、これから円山動物園をどうしたいのか、どんな円山動物園を目指したいのかなど、一人一人の思いを共有しました。

今、中本委員からいただいたような意見と少し関連することと言いますと、動物園の動物が本来住んでいるところから隔離され、たまたまこの動物園にいるのではなく、動物園にいる動物が自然界とどういう関係にあるのか、あるいは、ここで動物を飼っていることで、その動物が本来生息している場所の環境に何かプラスが生まれるのだろうかなど、そんな議論もありました。

また、皆さん真面目なご意見が多く、教育や研究、野生状態での動物の研究に寄与するような研究が動物園の中でできないかなど、割とアカデミックな話も出ました。ただ、皆さんの根底の中にあるのは、やはり、動物園はすごくわくわくする場所で、楽しくなければしょうがないということで、どうやって楽しく、わくわくするような動物園にしていけばいいのかということがありました。

そのためには、一つ一つの動物がハッピーでないといけないことがあります。そして、先ほど少し出ておりましたが、動物の福祉、あるいは、安全で快適な飼育環境、十分な飼育技術が根底に必要だということ、また、来ていただいた人にわくわく感を感じていただくためには、動物がわくわくしていると同時に、飼育員など、動物園の職員の方々もハッピーでないと伝わらないのではないかなというように出ていました。

そこで、動物園で働いている一人一人にどういう誇りを持ってもらうかというか、動物園で動物の飼育をしていることが世界の役に立っていることを実感できるような仕組みが考えられるといいなという話が出ていたかと思います。

○金子議長 どうぞ。

○矢野委員 夢を語っていいということですから、申し上げたいと思いますが、その前に、マスコミ関係の方に申し上げたいことがあります。

マレーグマのときはプレスの方がかなり来て、報道されていたのです。今、飼育員制度もできまして、動物園は非常に前向きによくなりました。金子議長が一番ご苦労されたのですけれども、このいい姿をマスメディアの方には報道してほしいと思います。そうしないと、札幌市民、道民、日本国民はわからないと思います。だから、悪いことだけを報道するのではなく、こういういいこともぜひ報道してほしいと思います。

それでは、夢についてです。

今、高齢者の方は地下鉄東西線の円山公園駅をおり、幌見峠、円山、神社山、旭山公園を歩いています。実は、円山公園から旭山公園まで抜けられて、円山にも登れます。

北海道神宮の中は通らせてくれないのですけれども、それが解決できれば、円山公園駅でおり、動物園の中を通ることができます。昔は、児童会館のところに回転式の装置があって、そこから抜けられたのです。西町の住民にしてみれば、地下鉄がなかったころは、市電をおりて、そこから円山公園を通り、北海道神宮、動物園、そして、回転式の出口を通って家に帰ったのです。

今、遊歩道も見直されていますので、セキュリティーなど、いろいろなことがあるかとは思いますが、動物園の中を通れることを検討の材料に載せてほしいと思います。そういうふうにすると、円山公園も北海道神宮も円山原始林も見られますし、動物園や円山川も見られ、山にも登れるということで、札幌市民のためには非常にいいと考えておりますので、ぜひ検討してみてください。

○金子議長 大変貴重なご意見をありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○武田委員 この間の雪が降った日に旭山動物園に行ったのですが、私の息子が夕暮れどきに赤いジャンパーを着てヒョウのところに駆けおりにいったのですね。そうしたら、色に反応したのでしょうか、まだ子どものヒョウが息子のことを追いかけてきたのです。そうしたら、飼育員が誰でも追いかけるわけではないんだよと子どもに言ってくれて、それがうれしくて、また上っていったら、遊ぼうというのか、興味があるみたいな感じで、何度も何度も柵の中で追いかけていたのです。

私の息子としては、すごくうれしくて楽しい経験だったのですが、周りにいた方々もおおと歓声を上げたのですね。これがわくわくするというに近いのかなと思いました。

やはり、動物が、寝ているのではなく、活発に動いていて、こちらを見たり、走る姿を見たときにうれしくなって、動物園に来て目が合ったということを友達に言ったりすると

思うのです。もしかしたらヒョウにとってはストレスだったかもしれないですが、来た人には動物が生き生きと動いているところを見せられたらいいなと思います。

動物によっては、活発になる時期や季節や時間もあると思うのですが、そういうことを来園する人に教えたり、また、私は専門家ではないのでわからないのですが、ストレスにならないのでしたら、動物からすれば、ガラス越しに人がいるだけで、つまらないと思ってしまう一生ではなく、面接のときにも言ったように、ボールが転がっていき、おっ、何だと思って走り回れるような動物に対しても一日の中で刺激があるようなことがあればいいなと思います。

こういうふうにお互いに動きのあるような動物園であったらわくわくするし、いいなと感じました。

○金子議長 小菅参与からコメントをお願いします。

○事務局（小菅参与） 今、武田委員が言ったことはとても重要なことだと思います。

ストレスと言いますが、ストレスのない社会がいい社会とは限らないのです。野生動物はみんな自然界というストレスフルの中で生きているのです。だからこそ、彼らは常に周りの状況を感じるべく、さまざまなアンテナを張りめぐらせて、その変化を見ているわけです。その変化としてお子さんがひっかかったのだと思います。

なお、色は関係なくて、動きだと思います。

では、どうして旭山動物園のヒョウが反応したのかというと、旭山動物園のヒョウは、多分、脳のどこかが常に目覚めている状態なのです。もしかしたら何かがあるという期待感があるのです。そこに自分の想定していないものの動きがあると、それに対して反応をするわけです。そういう状況をつくってやるのが実は飼育係の仕事なのです。

それこそ、先ほどから言っている専門員であれば、動物心理学を学んでいます、学問をやる必要はないのです。動物が何を考えているか、今、彼らはどういうものを欲しているか、どういう状況にあるのか、どんな行動をとるかもしれないのかを想像し、予測しながら、さまざまな行動を起こす切っ掛けとなるストレス（刺激）を与えていくのです。

もちろん、それが空振りに終わることもあります、それをやり続けることが動物にアンテナを張らせることになるのです。そういうアンテナを張った動物は、自分たちの居住区の中で起きる刺激ばかりでなく、自分の生活の外にあるお子さんの行動をもアンテナがちゃんとキャッチして行動を起こすのです。これは動物にとってもものすごくいいことです。

例えば、朝起きて動物舎に出てから入るまで何もなかったら、寝るしかないではないですか。脳の中を空っぽにするしかないのです。そうさせないのが飼育技術です。そういうことがきちんとできる専門員となることを、我々が期待しているところです。

いくら制度をつくっても、その専門員が何をやっていくのかわからないと意味がありません。私が今話していることはどこにも書いていないから、動物園の中で切磋琢磨して、そういうことを考えながら仕事をすることによって少しずつ幅を広げ、深めていき、いろいろなことができるようになるわけで、そういう動物園にしていかなければなりません。

勉強するためや研究するために来た人にとってもちろんとした答えを用意していなければだめです。しかし、中本委員がおっしゃったように、ふらっと来て、新しいものに気づいて帰る、武田委員のように、ああ、こんなことがあった、楽しかったわと思って帰る、これが連続することが使い勝手がよく、しかも、発信力のある施設に変えていくと思うのです。

ですから、今言われたことが動物たちにとってストレスになるはずがないのです。野生はもっともっとストレスフルです。逆に言えば、命の危険さえあります。そういう状況ではない多様な刺激を少しずつ与えていくことが動物飼育には欠かせないのではないかと考えています。

○金子議長 土田委員、いかがですか。

○土田委員 最初に目標を追いかけないというお話がありましたが、私は、どうしてもマーケティング的な発想になってしまいます。来てくれる人の満足と動物の福祉という観点が非常にクローズアップされている中でも、観光の分野にいと、どうしても来場者を増やさなければいけないと考えてしまいます。

私も武田委員と一緒に5歳の子どもがいます、動物園によく行くのですが、親御さんはどういうことを求めているのかなど、どうしても観光の視点で見えてしまうのです。

今、皆さんの意見を貴重なご意見としていろいろと聞いて、頭の中を整理している段階ですから、どういったものかいいのかはなかなか申し上げにくいのですが、今、観光の長期的なプランもちょうど見直しをやっているところですので、もしかしたら固い話かもしれませんが、動物園のあり方を議論するに当たって、札幌市のまちづくりプランとの連動など、上位の計画との関係はどうなのかということをおもいました。

○金子議長 札幌市全体の計画からするとどうでしょうか。

○事務局（加藤円山動物園長） 基本的には、札幌市の上位計画に基づいて動いていくこととなります。この構想もそうですが、構想を受けてつくる基本計画は、まちづくり戦略ビジョン、アクションプランがありますけれども、5年ごとの改定に合わせて足並みをそろえてつくっていかないと物事が進んでいきません。

直接的にはリンクしていかないのですが、これから我々がつくってこうとしている将来像につきましても、札幌市営の動物園ですから、札幌市のまちづくり戦略ビジョンをきちんと踏まえてつくっていきまして、そこは必ず整合性をとっていきます。

○後山委員 ポスト基本構想の検討委員のメンバーがここに書かれているのですが、任期はどうなっているのですか。

○事務局（高橋調整担当係長） 1年間です。

○後山委員 1年だったら短いような感じがあるのですが、そうそうたるメンバーですから、これだけの方がいれば、きっといい案がたくさん出てくるのではないかと思います。

ただ、私も、イベントなどの動員について考える立場でして、このイベントは基本から考え直さなければならぬ、基本計画を出してくれと会社に言われるのですが、な

かなか出てこないのが現状です。ですから、この検討委員の方々としても、今はこれだけの実施計画が出ていますが、多分、だんだん行き詰まるのではないかと思います。

今、この会議にもこれだけのメンバーがおりますので、私もお手伝いできますし、反対に言えば、各マスコミの結構大きな動員のあるイベントにブースに出展するなど、お金のかからない方法がたくさんあると思います。そこで、アンケートをしたり、新しい情報を得たり、動物園から一歩外に出ていろいろなことを考え直すこともいいのではないかと思います。

釈迦に説法みたいなことを言って申しわけないのですけれども、我々もいますということとでございます。どうぞよろしく願いいたします。

○金子議長 先ほど矢野委員からもございましたけれども、マスコミの方々にはぜひいいところを宣伝していただきたい、応援団としてよろしく願いしたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○森田委員 小菅参与にお聞きしたいのですけれども、旭山動物園の園長をやっていたとき、また、こちらでも大変ご尽力いただいています。

私は、素人で大変申しわけないのですけれども、円山動物園も旭山動物園も、上野動物園のような大スターのパンダがいないのに、全国的にもすばらしい動物園になっているのです。基本的な構想も変えていかなければいけないのですけれども、大スターがいなくても、レギュラーのゾウが来ますし、このまま行ってもいい動物園になると市民として期待していますが、その点はどうですか。

○事務局（小菅参与） 私自身は、南3条西7丁目で生まれ、円山公園や円山動物園で育ったものですから、子どものころからものすごく愛着があります。特に旭山動物園はもともと円山動物園の弟子のようにつくられた動物園でして、旭山動物園の初代園長の中俣充志さんは円山動物園の初代園長なのです。

その方が円山を退職後に旭山動物園の園長になられ、つくられた動物園ですから、基本的な考え方は円山に学べということで、私も札幌に帰ってくるたびに、円山動物園の人にいろいろなことを教えてもらいました。

先ほど武田委員にお話ししたとおり、動物園はこういうふうにするのだという教科書がどこにもないのです。その中で実際に動物とかかわっていかなければならないので、経験したことが占める割合がものすごく大きいのです。野生動物と飼育下の動物は、同じ生き物だけれども、ちょっと違うのです。野生から見るとやはり異常環境下なのです。しかし、その中で野生で持っていたものが失われるかといったら決してそうではなく、動物それぞれが自分なりにその異常環境下で生きていく答えを出しているのです。ただ、それがストレス行動にあらわれてきてしまうので、頭の中だけでもなるべく野生状況に持っていかなければならないということを考えるわけです。

私は、旭山動物園に入ったからには、旭山動物園をちゃんとした動物園にしたいと思っていて、自分なりにものすごくいろいろなことにチャレンジしてきました。その結果、正

直に言って、円山動物園には到底かなわないと思ったのです。それは何かというと、大都市の中にあるのです。皆さんはご存じでしょうが、旭山動物園というのは旭川市の中とはいってもものすごく遠いのです。もともと旧東旭川町を旭川市が合併した後にできたのが旭山動物園だったのです。この条件だけでもものすごく違うのです。

しかも、ちょうど円山という原始林の懐にあるのです。動物園とは自然への扉であるとよく言われます。まさに、それはこの場所のことだなと思っています。旭山動物園の周りは果樹園ですから、とても原始林とはほど遠いです。

そんな中、円山動物園と同じことをやっても絶対に勝負にはならないと思いました。根は勝負好きですが、勝負にならないのです。でも、小さな動物園でも何かに特化することで、円山動物園があつて旭山動物園があるというぐらいまでは認識してほしいなと思ったのです。それで、動物の行動を徹底的に研究し、こうやればこうなるということを経験則で考えていき、それが行動展示につながって、その次に行動展示型の施設の造成につながっていき、非常に高い評価をもらったのです。

実質、これぞ動物園という動物園はいまだに円山動物園です。私はいつも言っているのですが、円山動物園は総合デパートなのです。あらゆる地球環境を発信できるし、あらゆる動物のことを発信できる能力を持っているし、そういう規模なのです。旭山動物園に国際的な活動をやれといったって到底できません。でも、円山動物園ならできます。

例えば、ミャンマーからゾウがやってきますが、そのことによってミャンマーとのつながりをしっかりとさせ、そのかわりをどんどん太くしていくことができるのは札幌市です。これまで、どこの市もやってこられませんでした。どこの市でも、動物が入ったら、「ああ、ありがとう」で関係を切ってしまうのです。そうではなく、大切なミャンマーの国の宝を預からせていただいているわけだから、その間にさまざまな交流をすべきですよね。

そこで、観光事業といったらこれなのです。要するに、ここではゾウを見せるわけではなく、ゾウの暮らしを見せて、ゾウと人とのかわりを伝えて、その自然環境の持っている役割をしっかりと伝えることなのです。そして、ゾウを見た人たちがミャンマーではどうなのだろうと考え、向こうに見に行つて、ゾウとともに暮らしている人たちと交流を進めるといふことです。

もう一つ、ミャンマーの人たちも、あんな寒い札幌に行つて我々のゾウが幸せに暮らせるだろうかという疑問が絶対あるのです。それがしっかりとできるのが日本の科学力です。科学の力でゾウ舎の中にゾウが生きていける環境をつくり出していくのです。それは本当かなと思って見に来てくれることで、ミャンマーの人たちと札幌市の人たちが交流できるわけです。

こうしたことが日本とミャンマーとの非常に大きな民間交流になってきて、これをしっかりと続けるのがまさに観光の力だと思うのです。

最近では、観光人数と言わないで、交流人口と言うそうですが、まさにこういう取り組み

をすることができるのが札幌市だと思うのです。

私は、加藤さんが園長になってからずっと言っていました。四つの動物園をそれぞれものすごく特徴的にすることができます。札幌は総合動物園です。旭川は行動に特化した動物園です。釧路動物園は天然記念物、釧路湿原に特化した動物園です。そして、帯広動物園は、大平原ですから、非常に広い草食動物に特化した動物園にすることができれば、それこそ本州の人たちにはまず札幌に来てもらい、さまざまな動物園のことを学んでもらい、旭川へ行って、帯広へ行って、釧路に行って帰っていただくツアーも成立すると思うのです。

現実には、私たちの友人は個人的にそれをやっています。私の友人は、大体、10人から15人で来るのですけれども、この前も広島から20人ぐらい来ました。それで、私は、ここでそういう話をして、次に旭川へ行っていただきました。ただ、残念ながら、帯広には寄りませんでした。というのは、帯広動物園はその魅力を発信し切れていないのです。だけど、釧路動物園には行きます。

このように、本当にたくさんの方がやってきて、私はそのたびに他の3動物園を紹介します。釧路の藤本君は私の後輩で、すごく一生懸命やっている男です。帯広の柚原君は昔からよく知っている飼育係です。こういうつながりをたくさんつくることによって、動物園を目的とした観光は絶対に成り立つと思っているのです。

そういう意味でも、最も重要な核となるのは円山動物園です。“動物園は何か”というきちんとした考えのもとに運営されていって、それなりの実績を積むことによって、ほかの動物園もまた生きてくるのですが、円山動物園はそういうような動物園にならなければならないと考えています。

○金子議長 吉中委員には、小菅参与の夢もぜひ聞いていただいて、構想に盛り込んでいただきたいと思います。

八木委員はどうですか。

○八木委員 全体の計画の中で、この市民動物園会議がどのタイミングでどういうふうに関わるのかがわからないのですが、私なりに感じたことをお伝えいたします。

二点ありまして、一つは円山動物園の位置づけをはっきりしていただきたいと思いますと言おうと思いましたが、小菅参与が非常にわかりやすく言ってくださいました。

私は、「北海道生活」という雑誌で北海道内の札幌・旭川・帯広・釧路の四つの動物園について取材して特集させていただいたことがあります。そのとき、その四つの動物園を俯瞰して見ることはできたのですが、一般の人にはそれがわかりません。

北海道には公共の動物園が四つあるほか、民間の動物園や水族館などがあります。その中で、公共の動物園の立ち位置とは何か。時々、動物園は動物を見せ物にしている、動物虐待でけしからんという意見を耳にすることもあります。公共の動物園にとっての動物は見せ物ではなく、どういうものなのか。また、北海道における札幌の動物園の役割とは何なのかです。そして、先ほどもおっしゃっていただきましたが、円山の地にある意味、

円山という森がそこにあるという動物園の使命。これらを浮き彫りしたときに、ここに来ないと見られないものが出てくると思うのです。

ですから、まずは、円山動物園の立ち位置、位置づけとは何かを全体の中で明らかにしていただきたいと思います。

もう一つは、使い古された言い方かもしれませんが、「つながる動物園」です。今、一番ブームになっているのは上野動物園のパンダですが、私の時代はカンカン、ランランで、地方から上野まで見に行くのは困難でした。現時点でも公開はしていないので、パンダの赤ちゃんを実際に見に行くことはできないのですけれども、飼育員が動画を流してくださるおかげで、私たちは非常に期待感を持って、いつか赤ちゃんが来たら見に行こう、赤ちゃんがまだ見られなくても動物園に行こうという人が増えて、恐らく、上野動物園は動員を伸ばしているのではないかと思うのです。

10年前の基本構想になかったものは明らかに、SNSの力です。動物園に行かないと見られないものはありますが、そのモチベーションになるのは、日ごろ飼育員や獣医師が見ている動物園が開館していない裏側の動物園の様子です。イベント「夜の動物園」はそれで成功していると思うのですが、日々の動物たちの暮らしです。

「動物たちが幸せに暮らしている動物園とは何だろう」ということを、スマホなど、いろいろなメディアを使って私たちがみることができ、それを実際に見に行きたいという動機になり、動物園へ足を運ぶことにつながる動物園になっていったらいいなと思います。

そのために、私は、クオリティを高くして、入場料を高くしてでも素晴らしい動物園にしてほしいと思います。入場者数を上げるのはひとえに経営的な問題があって、それなのに安過ぎるとするのは公共の動物園の課題でもありますので、年間パスポートを使って日常来られる市民の方々の料金は据え置きにして、単発で来られる方や観光で1回だけという方はもう少し上げてもいいのではないかと思います。

そういう細かい話はさておき、数を上げるとなると儲けなければと何となくシビアな状況になりがちなので、まずは行きたくなるような動物園づくり、札幌に来なければ見られない動物園をしっかりと打ち出していただきたいと思います。

○金子議長 今、八木委員から最初にお話があった市民動物園会議のかかわりですけれども、検討委員会の間のどこかで市民動物園会議が企画されるのですか。

○事務局（神経営管理課長） 今、予定しておりますのは、来年3月にはある程度素案みたいなものができ上がってきますので、その段階で市民動物園会議にお諮りしたいと思っています。

○金子議長 検討部会を傍聴することはできますか。

○事務局（神経営管理課長） 当然、見ていただくことは可能です。

○金子議長 オフィシャルな形で市民動物園会議が間に入るのではなく、ある程度構想ができ上がった段階で皆様にお示しするということですね。

○事務局（神経営管理課長） 3月末で決まったもので最終的なものとするというような

認識ではなく、市民の皆様から聞いたものを反映していきますし、当然、市民動物園会議からの意見を反映して、最終的には秋ぐらいに外に出せればなと思っています。

○金子議長 パブリックコメントは年度明けてからですか。

○事務局（神経営管理課長） 来年夏ぐらいかと思っています。

○金子議長 わかりました。

ただ、今、大変貴重なご意見をいただいたと思うのですけれども、ご意見を反映させるために、できるだけ早い時期に検討部会にお伝えするなりして検討を入れていただくようなことも必要かと思えます。今回はこれだけの資料しかございませんけれども、先ほど小菅参与からもすばらしい夢を語っていただきましたし、皆さんの夢もぜひ動物園に伝えていただき、検討委員会で検討いただければと思います。

ここに検討部会のスケジュールが入っておりますので、ご関心のある方はぜひこの検討部会を見ていただいて、どういう状況なのかを知っていただき、また、何かあればメール等でご意見をいただければと思います。

それでは、スケジュールも含め、こういう流れということによろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、ポスト基本構想についての審議はこれで終了させていただきます。

最後に、新着動物等について、山本課長からお願いいたします。

○事務局（山本飼育展示課長） 資料4をごらんください。

まずは、主な転入・転出動物の状況についてです。

まず、グラントシマウマについて、7月11日に広島市の安佐動物公園から雄1頭が、10月19日に埼玉県の東武動物公園から雌1頭が来園しております。雄の名前はDJ、雌はチョビミミというユニークな名前です。DJは来園当初から職員にブラッシングされるのが大好きなくらい人なれしていましたが、一方で、先月来園した雌のチョビミミは少し臆病な性格です。今、一般公開に向けて観覧訓練を実施していますので、公開までもう少々お待ちいただければと思っております。

次に、ダイアナモンキーについて、8月1日に秋田の大森山動物園から雄1頭が来園しております。名前はウーロンと言って、年齢が22歳です。これまで、当園では、世界で3番目の高齢となる35歳のワシントンという雄がいて、彼がダイアナモンキーの繁殖に寄与してきたのですけれども、今後は今回来園したウーロンを繁殖の中心に添えて個体種の増加を目指していきたいと思っています。

次に、主な死亡動物の状況についてです。

平成27年8月に雌が死亡してから1頭でキリンの獣舎を支えてくれていたマサイキリンの雄のユウマが8月13日に死亡しております。直接的な死因は不明ですが、解剖所見では第4胃の胃潰瘍、削瘦、誤嚥性肺炎が認められております。マサイキリンの雄としては国内最高齢の21歳でありまして、数度の繁殖にも貢献してくれておりました。

キリンについては、やはり円山動物園にはなくてはならない動物と考えておりますので、来年中にはほかの動物園から導入するなり、準備を進めていきたいと考えております。

次に、10月27日、サーバルキャットの雄のポッキーが国内最高齢となる24歳以上で亡くなっています。

次に、翌日の28日、ワオキツネザルの雄のワッキーが28歳で死亡しています。

推定される死因ですけれども、ポッキーが慢性腎不全、ワッキーが肝臓の腫瘍による衰弱でございます。

ユウマと同じく、彼らも円山動物園を長い間支えてくれた動物たちでございました。特に、ポッキーについては、何度も体調を崩していたのですけれども、そのたびに奇跡的な回復を見せてくれました。その生命力には私たちも大変驚きましたし、来園者の方にも多くの感動を与えてくれた動物だったと思っています。

このように、円山動物園では、今後ますます動物たちの高齢化が進んでくることが予想されますので、今後も高齢動物の福祉に最大限に配慮した飼育を心がけていきたいと考えています。

次に、主な繁殖動物の状況についてです。

7月6日、ミーアキャットが2頭、繁殖に成功しています。当園としましては16年ぶりの繁殖となりまして、その後、命名投票を行って、まめともちという名前に決定しております。一般公開後は、連日行列ができるほどの人気ぶりだったのですけれども、公開してから間もなく9月30日に今度は5頭の赤ちゃんが生まれました。静かな環境を提供するため、現在は一般公開を中止している状況でございます。今、職員による観覧訓練を実施しておりますので、一般公開したときには、さらににぎやかになったミーアキャットの家族が見られます。

次に、ハイイロカンガルーですけれども、9月2日と21日に2頭の雌の袋の中から赤ちゃんが顔をのぞかせています。さくらの子を菊、サンドラの子を樹梨と命名しています。当園のもう一頭の雌のエイミーもおなかの中に赤ちゃんがおりますので、全3頭の雌全てがおなかの中に赤ちゃんがいることになります。

6月にはスローロリスも生まれていますので、カンガルー館でも新たな命が続々と生まれております。

○金子議長 ありがとうございます。

これにつきまして、何かご質問等がありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、今日予定しておりました議事が全て終了いたしました。

全体を通じてご質問やご意見等がございましたらお願いします。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、マイクをお返しいたします。

園長からよろしく願いいたします。

3. 閉 会

○事務局（加藤円山動物園長） 本日も、長時間にわたり、ご協議をありがとうございました。

検討部会の会議録につきましてはホームページ等で公開します。その際には皆さんにもご案内いたしますので、ご一読いただき、その際にご意見をいただければ、検討部会にしっかりと伝えていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、この後、委員の皆様には、この間に竣工し、来春オープン予定のホッキョクグマ館の見学をしていただく予定でございます。ホッキョクグマはまだ入っていませんけれども、お時間に余裕がある方はぜひご参加いただきたいと思います。

それでは、本日は終了いたします。

どうもありがとうございました。

以 上